

## 鎌倉市観光振興推進本部 第8回会議 会議録

日 時：平成21年12月21日(月) 14:00～15:30

会 場：鎌倉商工会議所301会議室

参加者：別紙出欠表のとおり

### 会議の概要：

開会あいさつ、庶務事項の後、議題の「(1) 鎌倉市観光基本計画進行管理委員会からの報告について」では、鎌倉市観光基本計画進行管理委員会の中根副委員長から進行管理状況の報告が行われた。

次の「(2) 各個別検討部会からの報告及び今後の方向性について」では、観光客マナー部会長から提言が了承された。また、鎌倉花火大会部会については、来年も開催すること、実行委員会を継続すること、8月10日以前の日程で開催することの3点が提案され、了承された。

「(3) 個別検討部会以外の取り組みについて」では、JR、観光協会など、各団体で取り組んでいる事例の紹介を行った。

最後に、観光振興シンポジウムの日程を報告し、会議を終了した。

### 議事の概要：

1. 開会あいさつ
2. 庶務事項
3. 議題
  - (1) 鎌倉市観光基本計画進行管理委員会からの報告について
  - (2) 各個別検討部会からの報告及び今後の方向性について
  - (3) 個別検討部会以外の取り組みについて
4. その他

### 1. 開会あいさつ

市民経済部長：

皆様こんにちは。定刻になりましたので、ただいまから第8回鎌倉市観光振興推進本部会議を始めさせていただきます。

本日は、議定数28名のうち、17名の出席をいただいておりますので、会議は成立しております。

この観光振興推進本部は、地域一丸となって観光振興推進を図る組織として、平成19年8月21日に設置いたしまして、2年間の任期で皆様に委員をお願いしてまいりました。この度、11月1日に市長が交代いたしました。市としては引き続きこの推進本部を設置し、皆様とともに観光振興に取り組んでまいります。つきましては、皆様には、本日付で推進本部員をお願い申し上げます。なお、委嘱状については、テーブルにお配りさせていただきましたので、ご了承くださいませ。また、本部長、副本部長につきましては、従来と同様に鎌倉市長が本部長を努めさせていただき、副本部長には井手観光協会会長、大崎商工会議所会頭をお願いいたしたく存じます。どうぞ、よろしく願い申し上げます。本部員の構成と出席者につきましては、名簿の通りでございます。なお、本日は各個別検討部会の部会長等の皆様にもご出席いただいております。

では、進行につきまして本部長よりお願いいたします。

本部長：

皆さん、こんにちは。本部長を務めさせていただきます鎌倉市長の松尾崇です。11月1日に市長に就任したばかりでして、至らない点多々あるかと思っておりますけれど、どうぞ、よろしく願いいた

します。本日初めての本部会議出席ということになりますが、皆様方のご協力をいただきまして、進めさせていただきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。この場におかれましては、鎌倉の観光に関連する方々がお揃いと思っております。鎌倉市全体が元気で活力あるまちを目指していきたいとそういう思いでおりますので、ぜひとも、本日の会議も実りあるものになりますよう、簡単ではありますが、冒頭の私の挨拶とさせていただきます。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

それでは、引き続き、座らせていただきまして、進めさせていただきます。それでは、会議次第に基づき、庶務事項から始めたいと思っております。庶務事項の会議の公開等について、事務局からお願ひします。

事務局：

観光課長の鶴見です。よろしくお願ひいたします。庶務事項の説明の前に、本日の配布資料について確認させていただきます。最初に本日の会議次第(A4 1枚)資料1としまして、鎌倉市の観光事情<平成21年度版>。資料2としまして観光客マナーについての提言。資料3としまして鎌倉花火大会についての提案。資料4ということで個別検討部会中間報告書。次に本部員名簿、席次表、観光振興シンポジウムのチラシ、第5～7回本部会議議事録です。以上ですが、お手元にございますでしょうか。

それでは庶務事項に移ります。まず会議録の確定についてですが、お手元にお配りした第5回から7回本部会議議事録につきましては決定版です。今後市のホームページで公開いたします。次に会議の公開状況ですが、観光課のホームページ上で傍聴者を募集しましたところ、1名のご応募があり、本日ご出席されています。傍聴者にお願ひですが、会議中の私語や発言、録音、写真撮影等はできませんのでご協力をお願ひいたします。以上です。

本部長：

よろしいでしょうか。傍聴者の皆さん、本日はお忙しい中ありがとうございます。事務局の説明にもありましたが、傍聴の方も是非、会議の円滑な運営にご協力をお願ひいたします。なお、会議録については、事務局説明のとおり、確認させていただきました。今後もご協力をお願ひいたします。その他、よろしければ、次に進めさせていただきます。

「3. 議題(1)鎌倉市観光基本計画進行管理委員会からの報告について」、事務局から説明をお願ひします。

事務局：

「鎌倉市の観光事情」の平成21年度版について、概要を説明させていただきます。資料1をご覧ください。表紙をめくりまして、目次をご覧ください。この「鎌倉市の観光事情」は、1「進行管理状況評価報告書」と、2「平成20年度実績概要」の2つで構成されています。

1「進行管理状況評価報告書」については、後ほど、進行管理委員会の副委員長からご報告がありますので、割愛させていただき、私の方からは7ページ以降の「平成20年度実績概要」について、ご説明させていただきます。

8ページをお開きください。「平成20年度実績概要」は、平成20年度の実績を観光課でまとめたものです。「平成20年10月の提言を受けた取り組み内容」として、それぞれ取り組んだ内容をまとめてございます。

まず、1の「市民の理解を深める取り組みの充実」としては、昨年11月29日に建長寺において、観光振興シンポジウムを開催いたしました。また、シンポジウムの前には、いくつかの散策ルートを設定し、応募いただきました市民の方にじっくりまちを歩いていただき、鎌倉の魅力を再発見していただく「鎌倉散策」も合わせて実施いたしました。さらに、前回の本部会議でお配りしました「観光振興推進本部パンフレット」を作成し、市民をはじめ、関係団体などへ観光振興推進本部の取り組みをPRいたしました。

10ページをお開きください。次に2の「点から面への連携強化」では、鎌倉市内でイベント活動を行っている団体に声を掛け、各団体間の交流や情報交換ができる場を作っていくことで準備を進めています。

11ページにまいりまして、3の「各種統計データの充実」では、これまで同じ方法で観光客数調査や観光消費額のデータ収集、処理を行っていましたが、今後は国や県と連携しながら、データ収集とデータの活用について検討しているところです。

次に4の「情報共有と情報発信のシステム化」では、ワーキンググループを設置して、鎌倉の観光情報を集約し、観光客が欲しい情報をどのように発信していくか、その仕組みについて検討しています。

最後に5の「観光を横串とした地域連携の体制作り」では、2の「点から面の連携強化」や4の「情報共有と情報発信のシステム化」を進めていくことで、地域連携が充実すると考えています。

次の12ページをご覧ください。ここからは、これまでの推進体制と20年度の推進本部の活動や進行管理委員会、個別検討部会やワーキンググループなどの活動状況をまとめてご紹介します。初めて本部員になられた本部員の方もいらっしゃると思いますので、改めて推進体制について簡単にご説明させていただきます。左上の★印、鎌倉市観光振興推進本部が、こちらの会議になりまして、鎌倉市全体の観光振興に関する意思決定機関となります。その下、☆印個別検討部会は、1) 鎌倉花火大会から、7) トイレ・美観個別検討部会までの7部会で、それぞれの課題解決に向けて、議論を重ねていただいております。その隣、☆印個別イベントは、地域レベルで文化・観光行事(イベント)に取り組んでいる皆さんのことを示しており、これらが、いわゆるPDCAサイクルのプラン、ドゥの部分になります。これに対し、右上の◎印、鎌倉市観光基本計画進行管理委員会は、基本計画の進行管理を担っていただく組織として、PDCAサイクルのCチェック機関となります。これらに、表の一番下の、市役所の関係各課長で構成する観光基本計画庁内連絡会議を加えまして、全体の推進体制として確立しております。

13ページに移りますが、20年度の活動状況として、各推進組織の会議開催・検討状況を簡単にまとめております。まず、本部会議は、5月と10月と3月の3回開催いたしました。観光基本計画進行管理委員会は、7月、8月、10月の3回開催しまして、19年度の取組みに対する評価・検証を行っていただき、最終的に評価報告書としてまとめていただきました。個別イベント連絡会は、実際にイベント等を開催されている団体の方にお声をおかけして、連絡会の立ち上げに向けて2月に開催いたしました。庁内の連絡会議は、3回開催し、それぞれ表のとおり、庁内への連絡、調整を図りました。

次に、14ページから18ページをご覧ください。個別検討部会は、部会ごとに個別テーマの検討をしまして、提言としてまとめた部会もご紹介します。各部会の開催状況と審議内容は表のとおりとなっております。

19ページをご覧ください。次に、21年度の推進本部取組み方針について、説明いたします。こちらは、20年度の目標指標に関するデータや、前年度の進行管理委員会の提言をふまえ、今年5月の本部会議において了承されたもので、重点施策としての一つ目は、「情報共有と情報発信のシステム化に向けて」、二つ目に「イベント団体の連携に向けて」そして最後に「個別検討部会の成果の具体化に向けて」を最重要課題と位置づけました。

重点施策の一つ目、「情報共有と情報発信のシステム化に向けて」につきましましては、昨年10月の本部会議で了承されました、関連団体の実務担当者によるワーキンググループで、現在検討を行っております。具体的には、ホームページを活用して、情報の共有や情報発信を行っていく方向で話を進めており、誰が、どのように情報を発信していくのか、といった大枠の部分を詰めている最中であり、今後、さらにその中身を詰めていく予定です。

二つ目の「イベント団体の連携について」ですが、鎌倉市内でイベントを行っている団体に声かけをしまして、イベント団体で意見交換や情報交換を行い、連携を深めるための

組織づくりを進めております。次回は会則等を確定させ、イベント連絡会としての運営ができる体制を整えていく予定です。

最後の「個別検討部会の成果の具体化に向けて」につきましては、14ページから17ページまでの検討内容を基にすでに提言をまとめた部会もできておりますので、今後は提言内容などを基に、関係団体との協力体制を強化させて実施に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

続きまして、20ページになりますが、5つの目標指標についてまとめてございます。表の左端に番号がふってありますが、指標1の「観光客の満足度。鎌倉に来る前の期待と比べた全体的な満足度」としましては、20年度は73.9%と、前年19年度より3.7ポイントの上昇となりました。指標2の「市民の満足度。観光都市の魅力と独自性に関する市民の満足度（納得度）」につきましては、20年度は80.6%と前年度より3ポイントの上昇となりました。指標3の「観光客数」は、昨年より3.5%増えて、1,934万人となり、目標値である策定時の現状値1,840万人を超えております。指標4の「宿泊客数」も32万8千人と昨年より7.9%の増加となっています。指標5の「海水浴客数」は、天候に左右される部分もありますが、20年度は好天に恵まれ、前年より増加となり113万4千人と100万人を超えております。このことから20年度につきましては、全ての指標において、数値の増加、向上いたしました。後ほど進行管理委員会からの報告でも触れられると思いますが、ひとつには、観光客の満足度は年々上昇していますので、これがリピーターを生み、観光客数や宿泊客数の増加に連動しているのではと考えられます。

21ページから33ページにかけては、これらの指標のグラフ表示やクロスデータなどを掲載しておりますが、時間の関係もございますので、説明は省略させていただきます。データ内容等について、何かご不明な点がありましたら、事務局まで問い合わせさせていただきますようお願いいたします。

次に34ページから42ページは、「観光課の事業概要」として観光課の主な事業結果や資料請求やホームページ、観光案内所での情報提供の状況などについて紹介しております。

43ページから49ページは、アクションプランの進捗状況をまとめたものです。19年度の実績と20年度の計画、実績を一覧にしております。

50ページ以降のデータは、観光消費額の推移、主要交通機関の利用状況、アンケートの集計となっております。実績概要の説明は以上となります。

引き続きまして、1ページからの、平成20年度実績を踏まえた「進行管理状況評価報告書」につきましては、鎌倉市観光基本計画進行管理委員会の副委員長であります、中根副委員長から報告をお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

#### (1) 鎌倉市観光基本計画進行管理委員会からの報告について

部会員代理：

観光基本計画進行管理委員会の副委員長を仰せつかっておりますツーリズム・マーケティング研究所の中根と申します。本日は本部員であります古谷委員長が所用のため出席できませんので、代理ということで平成20年度の進行管理状況評価報告書の内容についてご報告申し上げたいと思います。

具体的にはお手元の資料の鎌倉市の観光事情の2ページをご覧くださいと思います。20年度の実績に対する評価の全般といたしましては、事務局である観光課長からの説明もありましたように、主に鎌倉市民を対象としたシンポジウム、あるいは市民に向けてのパンフレットの作成、ホスピタリティー推進運動を継続して実施されたということで非常に地味なようですが、市民の生活に対して市を挙げて鎌倉の観光を理解するというところで着実な取り組みがなされたと評価できるかと思えます。これらを踏まえまして、今後さらに「住んでよし、訪れてよし」ということで、住んでいる方々が鎌倉市に誇りを持たれて、それが外の方についても非常に魅力的な鎌倉になるということで、市民生活と密接に連携

した観光振興事業をさらに進めていただくことが重要かと考えております。

具体的な目標数値につきましては、先ほどご説明がありましたように、観光客の立場から見た鎌倉の観光評価のポイントも上がっております。それ以上に市民の方々がこの鎌倉の観光についての評価が80ポイントを初めて超えています。全国に数多くの観光地がありますが、市民の8割以上の方が、自らのまちの観光に評価されているということは、さすが鎌倉市ならではのありますし、非常に注目してよい点ではないかと存じております。

続いて、個別の評価について3ページをご覧ください。目標1から3までのそれぞれの施策に対する評価すべき点については、目標1アでは、ホスピタリティー推進運動ということが着実に推進されて、市民の満足度に貢献したことが評価できます。目標1ウですが、これからの鎌倉市の観光の質を深めるという点で、従来からの寺社仏閣の歴史資源の観光資源だけでなく、現代的な景観重要建築物、あるいは、鎌倉の文化の文化資源に着目しまして、鎌倉の生活、文化産業全般を、新たな観光魅力として取り組もうとする動きは非常に評価できると思います。エでは、情報発信がこの時代非常に重要ですが、仕組みづくり、体制づくりに取り組んでいただきました。そして4番として4ページになりますが、市民生活に密接に関わる上で一斉清掃なり喫煙防止条例など観光だけでなくまち全体を良くしていこうということが、非常に鎌倉らしい評価できる取組みだと感じております。合わせて課題の方も挙げてございます。一つは、3ページのイに鎌倉の観光の季節的な変動、あるいは時間の変動、エリア、場所の集中等をさらに今申しました新しい魅力を開発することで、今までにない鎌倉の見え方というか、エリアを振興していく必要、課題があるのではないかとございます。それと、二番目にエリアの拡大も同じだと思います。時間的な拡大、新しい鎌倉の発信が課題ではないかと思っております。それともう一つは、今インバウンドということで、ビジットジャパンキャンペーンという国を挙げた取り組みがありますが、国際化なり外国の方々、さらには国内の高齢者やお子さんなりに、的と言うか、マーケットというか顧客層を絞り込んだきめの細かい情報の発信というものが問われてくるだろうと思っております。もう一点、市民生活とも密接に絡むところですが、観光の情報なりサポートだけでなく、そのような方々の、バリアフリーとか防災情報とか、社会・市民生活を含んだ全般の情報の提供なり充実などを今後さらに取り組んでいく必要があるのではないかと考えております。

以上のような評価、課題を委員会としてまとめさせていただきまして、提言を4ページから5ページに3としまして7点まとめさせていただいております。このうち1から5につきましては、昨年度の提言と継続した短期的なものではなく、中長期を踏まえて着実に取り組んでいただきたいということで、昨年度も提言させていただいたものです。そして、今年度新たに6、観光事業の平準化ということ、7、優先順位と横断的な取り組みを提言させていただきました。6につきましては、先ほど申しましたことで、鎌倉のまだまだ知られてない潜在的な魅力、資源等があるのではないかと、そのようなものを発掘していくことで、需要ということが平準化していろいろな経済効果を含めて鎌倉の魅力を発揮できるだろうと思っております。7について優先順位と横断的な取り組みということは、誰が進めるのか、進めるにあたってこの時代、非常に財源的にも厳しいということは行政、民間ともございます。そういう意味で優先順位、プライオリティを付けた推進も必要ですし、鎌倉市の財政だけでなく、国をあげて観光立国ということで、地域の取り組みを支援するような事業もござりますし、広域的な連携も問われています。このように内外含めた連携と横断的な取り組みをさらに推進していただきたいということでまとめさせていただきました。簡単ですが私の方からは以上です。

本部長：

ありがとうございました。中根さんには進行管理委員会の副委員長として、21年度版評価報告書をまとめていただきました。それでは、観光課作成の実績報告、委員会作成の

評価報告書につきまして、ご意見ご質問等ございましたらお願いいたします。無いようでしたら次に進ませていただきます。

## (2) 各個別検討部会からの報告及び今後の方向性について

事務局：

個別検討部会の報告及び今後の方向性について順次報告させていただきます。本日個別検討部会のうち、観光客マナー部会の渡辺部会長さんからご提言が、鎌倉花火部会の小林部会長さんからご提案がございますので、それぞれ部会長さんからご説明いただき、その他の検討部会につきましては、事務局から報告させていただきたいと思っております。最初に観光客マナー部会の渡辺部会長さんからお願いします。

部会長：

観光客マナー部会の渡辺です。今回、気持ち良く鎌倉散策を楽しんでいただくために、いろいろマナーが必要だろうということで、いろいろ部会で検討させていただきました。第2期鎌倉市観光計画を基に「住んでよかった、訪れてよかったと思えるまちづくり」を基本理念に観光振興に取り組んでいるところですが、そのためには、観光客の皆様にご満足いただけるホスピタリティあふれる対応の推進に取り組み、市民の理解をいただくことが重要であると考え、観光客のマナーが市民の観光振興に対する否定的な感情につながっていることがありまして、特に観光客マナー検討部会では、さまざまな場面での観光客が守るべきマナーの検討を行い、別紙のとおり「鎌倉での過ごし方」というものを提言させていただきました。内容といたしましては、当たり前のことがほとんどなのですが、当たり前のマナーこそ大事なことだと思ひ、それを守っていただければ、市民も今まで以上に観光客に対して温かい理解を得られるのではないかと考えました。今後は、「鎌倉での過ごし方」を色々な所で広報宣伝していただき、市民と観光客が一体となって鎌倉を愛し楽しんで散策できればと思います。

「鎌倉での過ごし方」の構成は、場面ごとにまとめてあります。まず神社仏閣では、心静かに参拝するようにしましょう。神社仏閣に入りお辞儀をしたり挨拶をしたり基本的な事をしてもらい、神社仏閣では心静かに参拝するようにしましょうとあえて挙げました。次に、貴重な文化財等を守るためルールを守りましょう。これは、特に写真を撮るために立ち入り禁止区域に入ったり、カメラの三脚使用の禁止があるのにもかかわらず使ったりしないよう、基本に振り返って貴重な文化財を守るためにルールを守りましょうとまとめてみました。3番目には、歴史を通じて有意義に過ごしましょう。鎌倉は古都として、800有余年の歴史があるわけですから、それを踏まえて歴史を実感していただきながら時間を過ごしていただくことが、鎌倉らしさを味わっていただくことで、あえて歴史を感じ有意義に過ごしていただきましょうということも挙げさせていただきました。次にまちなかですが、住んでいる人の迷惑にならないように心がけましょう。これは、どこの観光地でもあることですが、住んでいる方もいらっしゃることですから、ゴミを捨てるなどのことが無いよう、お互いが良く理解し合って、住んでる人に迷惑にならないようにしましょうということも挙げました。それから次に、ゆっくり、のんびりを心がけ交通安全に気を付けましょう。これは、年間1,900万人の観光客が鎌倉を訪れていますので、狭い道はお互い道を譲りあったりして、慌てず、ゆっくり心掛け、交通安全に気を付けて行動しましょうということ。次に、狭い所では少グループで行動しましょう。これは、大型バスが着いて大勢の人が道を歩くと道を占領してしまいますので、なるべくまちを歩く時には、少グループに分かれて、周辺の通行の支障にならないように、狭い所は少グループで行動する事をあえて入れました。外での飲食は周りに注意しましょう。最近ソフトクリームを歩きながら食べている人を目にしますが、他の人の洋服に付いたり、いろいろトラブルが増えていますので、外での飲食は、周りに注意しましょうと挙げてみました。次に、

タイワンリすの被害が増えています。餌付けは止めましょう。これは、実際タイワンリすの被害で苦情が何件も出ていますので、注意を喚起する上で入れさせていただきました。次にハイキングコースでは、お互い譲りあって楽しくハイキングしましょう。特に山の中では道が狭く、急な所や滑りやすい所も多いので、お互い譲りあって楽しくハイキングしましょうということです。次は、安全で快適に心掛け山歩きに適した準備をして歩きましょう。ハイキングコースでは、山あり谷ありの急な所がありますので、足元は履きなれた運動靴や軽登山靴など、ある程度の用意をして歩いていただきますということです。次に、自然を大切に、コースを守って歩きましょう。これはもちろん自然の中を歩くのですから、枝を切ったり草花や生き物を採取する人を見かけますので、それは止めていただき、自然を大切に、コースを守って歩きましょうということで入れさせていただきました。次に、公園、海岸でトビが食べ物を狙っています。屋外の飲食の際は注意しましょう。これは被害が相当出ていますので、特に注意を喚起する上で挙げさせていただきました。次に全体では、散策の際の喫煙は止めましょう。これは、鎌倉市の喫煙条例により、鎌倉駅や大船駅周辺では、指定された場所以外では喫煙できませんので、それを喚起すると共に、鎌倉の豊かな自然の美しい空気を満喫していただくためにも、指定された場所以外では吸わないというのと、散策での喫煙はできるだけ止めましょうとさせていただきました。次に、自分で出したゴミは、自分で持ち帰りましょう。これは歩く時の基本ですので、観光客の皆様にも必ず守ってもらい、自分で出したゴミは自分で持ち帰りましょうとあえて入れさせていただきました。次に、落書き破損は、マナー以前の問題で、神社仏閣には歴史的遺産が有りますので、公共施設の塀等を含めて貴重な文化財に傷を付けることのないようにと入れさせていただきました。全体に申し上げたことは、「鎌倉の過ごし方」の提言内容ではありますが、観光課から出しています小中学校向けの「課外授業ガイド」には、マナーページを追加して、マナー啓発を図るようにいたしました。「鎌倉の過ごし方」もPDFにさせていただき、ホームページを作成している会社等にも掲載の協力をしていただきながら啓発に努めたいと思います。それで、マナーが向上することによって、観光客と市民との間の理解が深まるようになればと思います。よろしくお願いいたします。

本部長：

渡辺部会長、ありがとうございました。今回、観光客マナー部会からいただいた提言については、鎌倉の過ごし方として検討がなされ、一定の成果としてまとめられたものです。それでは、この提案についてご質疑、ご意見がございませうでしょうか。それでは、本部として承認するというところでよろしいでしょうか。

～承認～

ありがとうございました。では引き続き、鎌倉花火大会個別検討部会の報告をお願いします。

部会長：

鎌倉花火大会部会長の小林でございます。本年、開催する予定でありました鎌倉花火大会は、残念ながら天候の関係で中止となりましたが、その反省点等を踏まえた上での提案とさせていただきます。お手元の報告書を読み上げさせていただきます、報告に代えさせていただきます。

第60回及び第61回鎌倉花火大会については、実行委員会形式での開催が望ましいとの本個別検討部会での検討結果を報告したところ、承認の後、実行委員会が設置され、第60回、第61回大会の企画・運営が行われました。第61回大会は、第60回大会と比べ、参加団体がより実質的に企画運営に参加し、実行委員会形式が活かされたと評価して

おりますが、残念ながら台風の影響で中止となりました。昨今の世界的な経済不況のなか、各地の花火大会は中止を余儀なくされるところも少なくありません。本市においても、財政的に非常に厳しい状況にありますが、第61回大会の中止に伴う繰越金を活用することにより、平成22年も開催することに一定の目途がたっておりますが、より一層関係各位の協力が不可欠です。つきましては、第62回鎌倉花火大会の開催に向け、実行委員会を再編成して取り組むとともに、開催日等については、実行委員会において財源確保、安全確保、漁業との共存等を考慮し、8月10日以前の日程で開催されることを提案いたします。以上です。よろしくお願いいたします。

本部長：

小林部会長ありがとうございました。只今の提案について、了承するというところでよろしいでしょうか。奴田委員お願いします。

本部長：

世界遺産登録推進協議会の奴田でございます。以前から8月10日の花火大会の開催について議論があったのですが、このくらいの説明では、なぜ8月10日ではいけないのかというのが理解できないし、鎌倉の8月10日の花火大会はもう何年も前から定着しているもので、これを変えるというのは、私としては非常に不満でございます。

本部長：

鎌倉市仏教会の仲田でございます。鎌倉の8月10日の花火大会というのは、定着していて市民の方もわかってらっしゃると思います。それを変えるというのは、よほどの理由がないと難しいのではないのでしょうか。自分達の都合でなくて、みんなが理解してそれを続けることが大事で、日にちが変わると定着しないですね。やはり日にちを固定してその日にやるということが重要なのではないかなと思います。

本部長：

ご意見をいただいておりますけれども、他にございますか。

本部長：

藤沢土木事務所の巴でございます。前にこの議論があったときに、この開催日で良いかという観点が、海水浴シーズンと重なってお客様の安全性がどうなんだ、ということ聞いておりました。ですから、そういった中でのご判断がどのようなかたちでなされたのかというところをお伺いしたいのが一点と、8月10日以前ということで、以後がないという選択ですけど、その点のお考えを伺いたいのがもう一点です。最後に、実行委員会を再編成してとありますが、これはどういう意図で、どういう方向でというのが決まっているのであれば教えていただきたいです。

部会長：

ご意見色々ありがとうございます。まず、8月10日に定着しているのをなぜ変える必要があるのかということについて説明させていただきます。最後に、県土木の方からもご質問がありましたので、併せてお話させていただきます。

まず、8月10日の開催は、昨年も皆様からご意見を頂き、議論を重ねましたが、昨年は年も明けずいぶん時間がたってからだったので、印刷物等も出来上がったものが多かったこともあり、8月10日のまま開催する予定でした。来年については、検討を重ねておりますが、花火を開催することに多くの費用がかかっていることは、皆様もよくご存知の事と思います。この点をしっかりとクリアしていかないと、企画だけでもお金がなくて開催できないことになりかねません。市内の商店さんや企業さんなど、様々な方にご協力、ご協賛をいただき開催してきましたが、昨今の経済状況もあり企業からの協賛が厳しくなっています。特に今までは、鎌倉市内のお店さんや商店さんに義理や人情で協賛を



お願いしてきたことも多かったと思います。しかし、それだけでは、警備費用も増大してきているので、それだけでは開催が難しくなっています。また、市の税収も厳しく、市からの補助金も大変厳しい状況です。そこで、独自の大きな企業スポンサーを得ていく必要があると判断し、実行委員会でいくつかの企業に打診しています。このようなお話のなかで、開催日に関するリクエストもきています。もちろん、確定している話ではありませんが、8月10日で開催するのであれば、協賛を得るのが難しい企業もあります。

もう1点は、来年の8月10日は、潮周りが悪く、花火の打ち上げ時間に砂浜が狭くなります。砂浜の侵食が進んでいるとお感じになっている方も多いと思いますが、沢山のお客様が来ていただいている花火大会をより安全に開催するためには、そのお客様を砂浜になるべく多く収容する必要があります。その2点が、8月10日を変更しなければならない理由です。

では、日程を変更するとしてなぜ8月10日以前なのかということですが、昨年も8月後半ではどうかといった際に、お盆以降は土用波の影響が懸念されていました。鎌倉の花火大会は、沖合いに台船を出し、そこから打ち上げという特殊な環境です。いくら天気が悪くても、波が高いと中止になってしまいます。土用波や台風の確立も8月後半になれば高まるとの、漁業関係者からのご指摘もありましたので、8月の後半は考えていません。また、8月10日以前の日程の検討ですが、花火大会だけでなく、市内の神社仏閣などの様々な事業、催物と重ならないよう考慮しました。また、鎌倉の海で生計を立てている漁業関係者もいますので、漁に配慮して日程の変更を検討しました。

本部長：

もう一点、実行委員会の再編成についてお願いします。

部会長：

実行委員会の再編成についてですが、実行委員会は様々な団体の皆様に出向していただいて組織していますが、毎年、新たに入ってくる方もいますし、団体の中で委員が変更になる場合もあります。そう大きくは変わらないと思いますが、そういった意味合いを含めて、実行委員会の再編成と表現しました。

副本部長：

ちょっと整理をさせていただきたいと思いますが、この提案書では来年も花火大会を開催すると言う事で決まっていると言う事でよいのですか？（はい、との声）

実行委員会の再編成とは、崩して再編成ではなく、人を入れ替えるという意味ですね。

部会長：

そういうことも含めてですね。

副本部長：

そういうことも含めてというと、どういうことがメインになるのですか？

部会長：

今までどおりの方もいますし、新しく入ってくる団体の方もいます。

副本部長：

一度崩して、なしにするわけではないのですか、と聞いているのですが。

部会長：

崩してつくり上げるわけではありません。

副本部長：

「開催日については、実行委員会において財源確保、安全確保、漁業との共存を考慮して、8月10日以前の日程で開催されることを提案します」とは、再編成した新実行委員会に提案するという事ですか。本部に提案するという意味ですか。新しく再編成した実行委員会が、何をやるのかをはっきりとさせたいのでお聞かせください。

本部長：

他にご意見ありますか。

本部員：

今まで鎌倉の花火大会が一定の評価を得ているのは、毎年決まった日にちで開催されてきたからだと思います。8月10日ではいけない理由は、財源的なスポンサーの都合とご説明ありましたが、なぜスポンサーが見つからないのかをお話していただけますか。

部会長：

長年、8月10日で開催してきたことは、私自身よく承知をしているつもりですが、一番避けなければならないのは、開催自体できなくなることだと思います。予算をクリアしていく上では、広告代理店を通しての話のみで、詳細は何っていませんが、8月10日以前でないと難しいと聞いています。それは企業の意向であるとも聞いています。来年については、予備日も含めて開催しようと考えております。ただ、予備日を設けることにより、予算が増大してしまいますので、その辺も含めて予算の問題をどうクリアしていくのかということが課題です。

本部員：

では、もう少し突っ込んでお話をお聞きしますが、将来的に財源をどうやって確保していくのですか。そういうビジョンはございますか。

部会長：

今までと同様に様々な市内の商店や企業にお願いをするのはもちろん、市の予算からも支出をしていただきたいと思っておりますし、それと合わせて、今申し上げました企業からの協賛を得てやっていかないとこれからの開催は非常に難しくなってくると考えています。

本部員：

私、花火大会部会の協賛部会長ですから、補足させていただきます。基本的に、お盆前に行わないと夏の花火というイメージがかけ離れてしまっただけで広告宣伝にならないというのが、大手の広告代理店やスポンサーの意向であると思っております。8月10日以前と書いてあるのは、お盆以降は波が高くなり危険なので外したのではないかと思います。副本部長のご提案は、基本的に実行委員会で、こういう点に考慮して、日程から何から決めた方が良いのではないかとということだと思います。8月10日が良いか悪いかをここでしてしまいますと、ここで何日にやるのかということを決定しなければならなくなるので、再編された実行委員会で花火の日程等、全体を調整するべきだと思います。よろしくお願ひします。

事務局（市民経済部長）：

市民経済部長の相澤です。今年流れてしまった花火大会の警備部会の部会長を仰せつかって、警備計画を一生懸命立てた立場から発言させていただきます。先ほど、部会長から来年の潮周りが非常に悪いとお話をいただきました。今年できませんでしたが、去年開催したとき、8月11日でしたが、そのときの潮位と比べまして、来年の8月10日は同じ時間帯で40cmほど潮位が高くなります。ご存知のとおり、昨年開催したときも、若宮大路に人がいっぱい溢れ出まして、鎌倉警察署から、今年やるときはそのようなことがないようにときつのご指導をいただきましたので、私どもは、これを念頭に入れて、人が

分散するように計画を立てました。今年は、中止になったので、これを実施することはできませんでしたが、来年は今年以上に潮周りが悪くなるということで、警備を担当する立場としては大変怖い状態です。できれば、そういう状態を避けてお客様を迎えたいというのが実感です。

本部長：

他にご意見よろしいですか。

本部長（代理）：

文書の真ん中あたりに、「第61回大会の中止に伴う繰越金を活用することにより、平成22年も開催することに一定のめどが立っています。」と書いてありますが、裏を返せば、繰越金があるから来年開催できる、つまり2年に1回に開催できるペースであると読めます。これは市民の方が読んだら波紋を呼ぶのかなと思うのですが、単に8月10日以前の実施に向けて今後検討するというような書きの方がよいのではないのでしょうか。財政が厳しいことを強調されているとは思いますが、去年できなかったから今年ではできるととられかねないと思います。

本部長：

この点について、部会長からお答えできますか。

事務局（観光課長）：

この提案書については、花火大会個別検討部会の総意で作成されたものなので、変更するのであれば、個別検討部会に諮る必要があります。

副本部長：

あえて言わなかったのですが、そうすると確認しなければならないのですが、資料1の12ページに鎌倉観光振興推進本部は、鎌倉市全体の観光振興に関する意思決定機関であると位置づけがされているのと同時に、19ページの一番下に個別検討部会からの提言が提出された際には、その実現に向けた施策が着実に実施できるよう、各主体が協力体制を構築していきます。また、実施の際はその手法などについてもよく検討し、できることから速やかに実施します。とありますが、この本部会議が意思決定機関であるなら、その兼ね合いはどうなりますか。

事務局（観光課長）：

副本部長からありましたとおり、本部会議が最終決定をするものなので、提案書を本部の指示で訂正することは、可能であると理解しています。

本部長：

今の点につきましていかがでしょうか。確かに、誤解を伴うような表記に取られかねないというところもあるので、訂正をしてください。

副本部長：

もう一回お尋ねしたいのですが、実行委員会では、来年も開催するということと、実行委員会は存続して、人の入れ替えはあることを承知しておいてほしいということと、8月10日以前の日程で開催されることを提案します、という3つでしたよね。それで、来年も開催しますということについては、お金のことも多少ありますけれど、ご承認をいただいて、実行委員会は人の入れ替えがあるかもしれません、ということもご承認をいただいて、10日以前のことについては、いろんな意見がでているので、どうするかということをやってもらわないと委員会に持って帰れないと老婆心から思うのですが、いかがですか。

部会長：

ありがとうございます。本当に開催をするということは、ここにも書いてありますが、やるという方向で進めていきたいと思えますし、実行委員会についても、副本部長がおっしゃったとおり、多少の人の入れ替えはあるにせよ、同様にこれで進めていきたいと考えております。日程については、8月10日以前の日程でこの本部会議の中で承認を頂いて速やかに日程確定をしていければと思っております。

本部員：

鎌倉警察署の渡邊でございます。個別部会の報告を私は受けているのですが、正直言ってこのペーパーを見たときに、内容が読みとれないと思えました。増田委員がさっきおっしゃったように、実行委員会に権限を委譲します、という内容の決定をすると私は受けていたのですが、そうしないと、日程から何からここで検討することになり、堂々巡りになってしまうので、そこが読み取れないと思えました。

本部長：

今の点、ご指摘のとおりだと思いますが、事務局から何かありますか。

事務局（市民経済部長）：

鎌倉警察署長がおっしゃったこと、副本部長が確認された3点のこともございます。この場では、是非今後の実行委員会の立ち上げと、来年の花火大会の準備、あるいは財源確保の点もございますので、実行委員会へこの8月10日以前の日程の確認、決定も含めて委譲していただければありがたいと思えます。

本部長：

今、そのような事務局からの提案になりますが、そのようなことをお含みいただいて、この提案を了承していただくということでしょうか。

～ 「意義なし」の声 ～

よろしいですか。ありがとうございます。

なお、花火大会の実行委員長は引き続き小林さんをお願いしたいと思えますがよろしいでしょうか。（拍手）

では、お願いします。

本部員：

第61回というのは中止になりましたよね。次は第62回でいいのでしょうか。歴史が長いもので、どう捉えるのでしょうか。

本部長：

61回は中止、次は62回ということで。

本部長：

昨年の実行委員会から新しく実行委員長が任命されたという格好になったと思うのですが、昨年の決算報告はどうなってしまうのですか。

部会長：

今まで第60回の決算報告もこの場にでていなかったと思うのですが、実行委員会の中で決算はきちんと済ませまして、繰越額も確定させていただいております。

本部長：

第60回はこの形でやっていましたか。

部会長：

第60回は井手会長が実行委員長になられて。

本部長：

この本部会議で任命はされていないです。第60回は観光協会がやりました。

本部長：

今は、観光協会ではないから。

本部長：

事務局から。

事務局（市民経済部長）：

確かに、実行委員会は第60回からですが、本部会議から任命された実行委員会ではありませんでした。扱いが違うのはそのとおりです。今日、新しく第62回の委員長が任命されてしまったのですが、形の上では前の第61回実行委員長名で決算をしっかりとまわして、本部会議にご報告させていただくということでしょうか。

本部長：

内容はそれで良いと思うのですが、たとえば、前年の繰越金がどのくらい残っていて、次年度についてはどのくらいの予算でやると、市からはどのくらいのお金がくるだろうと、そうすると民間ではどのくらいのお金を集めなければならないし、こういうふうにやらなければならないということが検討部会から本来でるものでしょう。それを受けて実行委員会でやっていくのでしょから、本当は検討部会と実行委員会に分かれているというのは、どうなんでしょう。その辺を整理して、わかるように説明してほしいですね。

事務局（市民経済部長）：

副本部長のご意見は、皆さんからご協力をいただいてこの花火大会をやっていこうというご指示だと思うのですが、今回そこまで準備できませんでしたので、来年に向けてそれは検討させていただきたいと思います。

本部長：

ご協力ありがとうございました。先に進めさせていただきます。残りの個別検討部会については事務局からお願いします。

事務局（鎌倉市観光協会）：

観光協会事務局の安田でございます。

鎌倉まつり個別検討部会の今年度の報告をさせていただきます。今年度は、11月30日に第4回目の会議を開いております。その中で、意見集約をしたものがございます。

一点目は、鎌倉まつりのパレードにつきましては、参加者を中心とした実行委員会、あるいは連絡会的な組織を立ち上げて運営をしていくのがよろしいであろうということ。組織の移行期間と立ち上げまでは、2、3年と考えており、その間については、これまでの主催でありました観光協会が手伝って行い、最終的には実行委員会、あるいは開催時期も含めまして、パレードについての実務、運営を行うのが良いと考えました。

二点目は、ライトアップに力を入れていき、将来的には全市的な取り組みを目指していくこと。

今後の取組みにつきましては、鎌倉まつりの期間全体を充実させることについて引き続

き検討をしていくことにしております。

鎌倉まつり個別検討部会については、以上でございます。

事務局（観光課長）：

引き続き、国際観光個別検討部会、安全安心個別検討部会、トイレ・美観個別検討部会、ホスピタリティ個別検討部会について、簡単にご報告させていただきます。

資料4の個別検討部会中間報告書3ページをご覧ください。国際観光個別検討部会では、21年8月31日に個別検討部会を開催いたしました。取り組みとしましては、外国人観光客を迎えるにあたり、受け入れ体制の充実を検討課題として、議論を重ねております。これまで、短期的な取り組みとして、外国人向けの実用的なサンプルパンフレットを作成し、一定の方向性が出たことから、現在は、観光協会と協力しながら発行に向けて準備をしております。また、前回の本部会議で、国際親善大使についてこの部会で検討し素案をまとめるようにと指示がございましたので、現在、国際観光親善大使の設置の目的、候補者の選出や実施方法等について議論をしているところです。現在結論には至っておりませんが、今後も引き続き検討していくことになっております。

次に4ページをご覧ください。安全・安心個別検討部会でございますが、部会は21年12月16日に開催いたしました。取り組みとしましては、今後の方向性についての確認、対象を観光客に限定することなく、市民の延長上に観光客があるのが自然なことであるとの認識が確認されています。そして、国民、市民に対して考えられている災害や犯罪等に対する現状の施策や計画について調査を行い、観光客向けに手薄な部分があれば洗い出し、その主体に対して、部会として何ができるのかを検討することが当部会の目的ではないかと確認されました。また、この目的が、観光振興推進本部から当部会に課せられた目的と一致するか、確認をいただければと思います。

次に、5ページをご覧ください。トイレ・美観検討部会ですが、部会は21年12月15日に開催いたしました。取り組みとしましては、既存の公衆トイレの情報提供を目的に、公衆トイレに、主に周辺の公衆トイレの案内をするための「トイレ案内看板」を設置していくこと。観光課所管以外の公衆トイレにも案内板を掲出することや、表示内容に工夫を加えていくことが意見として出されました。また、民間トイレの活用については、引き続き検討を行い、実効性のあるルールや制度作りを目指すこととし、以上の方針に沿って活動を続けてまいります。

次に6ページをご覧ください。最後にホスピタリティ個別検討部会ですが、本部会は、5月29日開催の本部会議で部会長から提言書が提出されており、現在、各主体となる事務局で実現に向けた検討を行っているところですので、提言後の部会は開催しておりません。

以上で事務局からの報告を終わります。

### （3）個別検討部会以外の取り組みについて

本部長：

ありがとうございました。それぞれの個別検討部会の進捗状況でございました。

それでは、次に、「（3）個別検討部会以外の取り組みについて」を議題とさせていただきます。事務局からお願いいたします。

事務局（観光課長）：

それでは、個別検討部会以外の取り組みについて、ご説明いたします。

鎌倉には、この個別検討部会のほか、様々な団体が率先して様々な観光振興に取り組んでいらっしゃいます。そのような団体の取り組みの中から、今回は、JR東日本鎌倉駅、観光協会の事例についてご紹介をいただき、その後、事務局の方から、鎌人いち場、鎌倉芸術祭についてご紹介させていただきます。はじめに、JR東日本鎌倉駅長の多賀谷委員にお願いいたします。

本部長：

お疲れ様です。10月1日付で鎌倉駅長に就任しました多賀谷と申します。

私は、現在、駅長ですが、実は駅の仕事はほとんどしたことがなく、会社に入ってから、弊社の旅行商品でありますビュー商品の造成とか販売、それから観光の仕事をお手伝いさせていただいておりました。私からは、今年行われました開国博Y150のデスティネーションキャンペーンをご紹介いたします。これは、私ども以外に、JR東海、北海道、西日本、九州が横浜にお客様を送ろうということで、横浜・神奈川デスティネーションキャンペーンと称しまして、6月から8月まで取り組みを行いました。今後、鎌倉に参考になるかと思い、2点お話をさせていただきます。

まず、一点目ですが、期間中、桜木町、関内、石川町を起点にボランティアガイドの方に毎日駅に来ていただきまして、10時と14時と2回、開国博Y150のまち歩きをご案内させていただきました。お一人様500円というお金をいただいたのですが、期間中、7月28日から9月27日まで、約2,000名のお客様にご参加をいただきました。

それから、もう一点ですが、弊社では、スイカというカードを発行させていただいております。今、スイカとパスモで4,000万枚出回っておりまして、こちらを活用いたしまして、横浜市内の開港資料館や横浜銀行、崎陽軒など19件にご協力いただきまして、スイカでまち歩きということで、タッチラリーを計画させていただきました。こちらにつきましては、7月18日から8月31日までで約12万タッチがございまして、まち歩きに大きな成果がでたのではないかと考えております。

今後、鎌倉でも、ご検討くださる機会があればご助言できると思いますし、鎌倉駅の駅長として、観光客の皆様をお出迎えする体制を整えていきたいと思っておりますので、是非今後ともよろしく願いいたします。

本部長：

多賀谷委員ありがとうございました。この点につきまして、何かご意見、ご質問はございますか。よろしいですか。では、続きまして観光協会の取り組みについてお願いいたします。

副本部長：

実は、駄目になってしまった話ですけれど、郵便局と提携して、鎌倉の切手を出そうと準備を進めていました。世界遺産のマークを入れて。しかし、政権交代の影響で潰れてしまいました。また状況が代われば別ですが、今のところはございません。

本部長：

政権交代の影響がこういうところにまででているというご報告でした。

次に、鎌人いち場と鎌倉芸術祭について、ご説明をお願いいたします。

事務局（観光課長）：

私から、鎌人いち場と鎌倉芸術祭について、ご紹介いたします。

はじめに、鎌人いち場ですが、鎌人いち場は、平成20年5月に開催されました鎌倉市民活動の日フェスティバルの公開ミーティングから立ち上がったイベントでございます。かつてまちには広場があって、広場では市場が開かれておりました。そこでは単に物の売り買いだけでなく、暮らしに必要な情報の交換や生活の知恵を得たりする場でもありました。このイベントは、こうした市場をモデルとしており、他人との関わりが薄れている現代に、このような市場を復活させ、誰もが気楽に参加できる横断的なコミュニティとして日常の中に根付かせたいとの気持ちから、NPO団体が中心となって実行委員会を立ち上げ、継続的な活動として行っていくことになったと伺っております。現在は、かなり大規

横に行われておりまして、出展ブースは200以上、来場者も8千人以上となるすばらしいイベントでございます。開催するたびに内容も充実してきており、今後も期待できるイベントとして挙げられております。今年度は7月12日（日）と10月18日（日）の2回、鎌倉海浜公園で開催されております。7月12日（日）には、約230のブース、8,000人が来場されました。10月18日には、約200のブース、8,300人の来場者がありました。

2つ目は、鎌倉芸術祭でございますが、鎌倉芸術祭は、芸術に造詣の深い人々が多く住むこの鎌倉で、市内の寺社や画廊などで行われる多くのイベントを、まち全体をアート会場として市内外の人を楽しんでもらおうと企画されたもので、今年で4回目を迎えました。鎌倉芸術祭の主な会場は、鶴岡八幡宮や建長寺、円覚寺といった鎌倉に欠かせない歴史のある寺社であり、そこでは、クラシックコンサートや落語、絵画展など様々な質の高い催しが開催されております。特に今年、円覚寺、浄智寺、建長寺、長谷寺、光則寺の5つのお寺で行われたアートイベント「鎌倉巡区」は、5つの名刹と6人の現代美術作家とのコラボレーションにより、寺院が持つ圧倒的迫力の空間とその空間に誘発されて誕生した作品を同時に鑑賞できるという幻想的な催しとして注目を集めました。このように鎌倉に住む方々を含む様々な団体の努力によりまして、少しずつですが、定着してきております。また、鎌倉芸術祭も年々規模が大きくなりつつあり、参加することで鎌倉の新旧の魅力を堪能できるすばらしい催し物となっております。

以上のように、こうしたイベントが継続的に行われ、また充実させていくことが、将来的に、鎌倉の観光振興に繋がっていくものと考えています。簡単ではありますが、以上で説明を終わります。

本部長：

特にご質問、ご意見はございませんか。よろしいですか。

様々な市民の方々のイベントについては、この2つのほか、様々に行われていますけれども、これらが有機的に結びついていけば、鎌倉の魅力もより高まっていくのかなと思います。

最後に事務局から何かありますか。

事務局（観光課長）：

次回の推進本部会議ですが、来年5月頃の開催を予定しております。後日、日程調整をさせていただきます。ご連絡を差し上げたいと思います。

それから、お手元の「鎌倉の魅力再発見」というチラシをご覧ください。これについては、観光協会からご説明いたします。

事務局（鎌倉市観光協会）：

鎌倉市観光振興シンポジウムについてご報告いたします。

資料は、今申し上げましたとおり、色刷りの1枚ものをお配りさせていただきました。今年度の観光振興シンポジウムについては、観光協会が企画運営を行って参ります。今回第2回となります。このシンポジウムは、「鎌倉の魅力再発見」という題名で、来年の2月27日（土）に妙本寺本堂で行う予定です。内容は、アメリカ出身の銅版画家ピーター・ミラーさんを講師に、鎌倉の魅力と題した講演をしていただき、その後、第2部として、イタリア、インド、カナダ、ベトナム出身の方々をパネリストに招きまして、「鎌倉の持つ魅力と課題」をテーマに、パネルディスカッションを行っていただきます。コーディネーターには、ニュースキャスターの久能靖さんを予定しております。なお、今回は、鎌倉世界遺産登録推進協議会の共催というかたちで行おうとしております。委員の皆様のお席をお願いしたいと思います。また、委員の皆さんが所属されております会社、団体の皆様に



もお知らせいただきまして、是非、お時間を作って参加していただければと思っております。

よろしくお願いいたします。

本部員：

1月には私どもの世界遺産登録推進協議会のニュースが出ますので、これを是非入れたいのですが、この（仮）というのをとって掲載させていただくことはできないでしょうか。

副本部長：

（仮）という字をとって、そのまま載らせていただいてもかまいません。

本部長：

それでは、長時間に渡り、ご協力をいただきましてありがとうございました。これもちまして第8回の本部会議を終了させていただきます。

ありがとうございました。